

# あなたに はつタッチ

リレーエッセー④

## 六十の手習い ハンドベル

未知の分野への挑戦。まったく思いもかけず、ハンドベルという楽器を見、手にしたのは、一九九九年の年初。いなみ野学園地域活動指導者養成講座の修了生で、ハンドベル演奏でボランティアをしませんかとの誘いがあった。音楽音痴を承知しながら、持ち前の旺盛な好奇心を抑えがたく、「ついやりましょよ」と受けてしまった。

このハンドベルについて、リーダーの方から、「このベルはそれぞれピンからキリまであって、キリは数百万しますよ。でも、私たちが使用するの、ほんの初心者向きで、子どものおもちゃのようなものです」と教えられたが、手に取り振ってみると、その音色の美しさは、大変魅力的であった。そもそもこのハンドベルは、西



衣笠 かず子さん  
(二子)

趣味 俳句  
俳句を作ることにより、季節感、日常感が味わえ、自分の心をも相手に伝えることができます。

洋諸国の宗教音楽に用いられ、発達したものと聞く。その崇高な音色は人々の心に染み入り、敬けんな態度で耳にされたことと思う。だが、ともかく練習開始。月二回、二時間程度、ああ、あの譜は振り遅れた、流してしまつたと大汗、冷や汗をかきながら、懸命に努力した。

練習不足ながらも、この年のクリスマスに、施設へ演奏訪問した。ジングルベル(この曲はとも賑やかで心が浮き立つ)、きよしこの夜、ベートーベン作曲の歡喜の歌などを演奏。

また、聞いてくださった方々にもベルを持ってもらい、私たちが手を添え、振つた時の和やかさ。音楽というものは、人の心に喜びと活気を与えるものだ、実感したことである。

年間を通じての練習曲は、野ばら社の愛唱名歌集により、皆で合わせて最も普遍的な曲を選んでいく。子どものころの歌、若い時代の歌、いずれも懐かしく忘我の練習時間である。

また、このベルはお互いが異なる音階を持ち、グループで演奏する仕組みで、自然と人と人とのつながりができ、仲間意識が強く作用するのではないかと思う。

このほど私たちの会では、トーンチャイムという名のやや本格的な楽器を購入した。この楽器も澄んだ美しい音色で、その内弾きこなしたいものだと思つている。このハンドベルにより、人々とのふれあいを大切に、人の輪を広げていきたいと願つている。

ハンドベルの練習日  
4月から第2・4火曜日午後1時30分~4時、しあわせセンター内で、練習しています。どなたでも、大歓迎します。



笑顔があふれる楽しいサークル

## フラワーサークル 「花の輪」

代表 志水 尚美さん

中央公民館で第一・三火曜日の午前十一時からと午後二時から活動しているのはフラワーサークル「花の輪」の皆さんです。

活動を始められたきっかけを代表の志水さんに聞くと、「たくさんの方に花とふれあい、その良さを実感してもらいたいと思い、昨年の十一月からサークルとして活動し始めました」とのこと。

メンバーは「独身の方から、ちよつとお年を召した方まで幅広い年齢層で、総勢十九人います。しかし、全員女性なので男性の参加も歓迎していますよ」と笑顔で教えてくれます。

活動内容は、毎月二回、毎回スタイルを変えて、また季節に応じたお花を使っ



毎日の生活に潤いを

てフラワーアレンジを楽しんでおり、特にブーケやコサージュを創作するときは皆さん楽しみしておられるとのこと。

メンバーに参加したきっかけを聞くと、「以前華道を習っていましたがお花を別の角度から見てみたいと思つたから」とか「花が大好きで、何でもチャレンジしてみたいから」とさまざま。またサークルの印象を聞くと、「子どもと一緒に参加しても楽しく、夢中になれます」とか「明るい雰囲気です」とも楽しいです」と笑顔で応えてくれます。

「今後は、共同で大きな作品を制作したりしてみたいです」と意欲を語る志水さん。

このコーナーに登場して下さる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画調整課

この新しく始まったフラワーサークル「花の輪」では、メンバーを募集しているそうで、問い合わせは代表の志水さん ☎090(9212)0861 までどうぞ。

なお、花などの材料費は必要だそつです。

## 写真コーナー お便り



平部 陽子さん(本荘)



田坂 真優子ちゃん(古田)

心のメッセージや絵、マンガ、詩、写真などを募集しています。八ガキに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、〒675-0182(個別番号・住所記載不要) 播磨町役場企画調整課まで(掲載させていただいた方には記念品を差し上げますので、匿名希望、ペンネームの方も住所などお書きください)

## 兵庫5カ国交流会議

兵庫県には古代律令制国家のもとで、旧国制の摂津・淡路・但馬・丹波・播磨の国の五カ国が置かれていました。

こうしたことから兵庫県はそれぞれ固有の歴史、文化、風土を有する五つの国から成り立っていると言えます。この旧国名の地域内にある一市四町の「五つの国」が集まり観光・物産や地域の伝統芸能などの紹介などを行い、私たちの住む郷土、兵庫県を知り、広く交流を図りながら、各地域の活性化を推進することを目的に結成されたものです。

但馬の国 香住町

香住町は、兵庫県の北端、日本海沿岸に位置し、三方を山に囲まれた自然豊かな町です。国の名勝に指定されている香住海岸は、地質学上でも大変貴重な天然の博物館で、日本海の荒波によってできた無数の洞くつや、そそりたつがけと奇岩は、見事な造形美を創りだしています。

余部鉄橋

山陰本線最大の難工事として、明治45年に完成した。日本最初のトレスル式高架橋で、当時は東洋一とされ、現在もこの形式の鉄橋としては日本一の規模を誇る。夜、この鉄橋の上を通りすぎる列車は、さながら空を飛ぶ銀河鉄道のようにです。

特産品 松葉ガニ、二十世紀梨、ひょうごブランド商品「米地みそ」

「カニスキ」を求めて多くの観光客でにぎわいます。その他、二十世紀梨などの山の幸も豊富で、香住ならではの四季折々の名産が楽しめ、新鮮な幸がいっぱいです。このようなぜいたくを誰もが味わうことができる、香住町はそんな町です。

名所 余部鉄橋、大乘寺(応挙寺)、国の天然記念物「鎧の袖」

また、日本海沿岸屈指の漁業の町として知られ、中でも「松葉ガニ」の水揚げを中心に、夏の海水浴はもちろん、冬場には



余部鉄橋